令和４年度　学校評価報告書（実施結果）

県立横須賀高等学校（全日制）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 11 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学習指導要領改訂に対応し、教科学習と課題研究の相乗効果による「知の循環」が有効に機能するための教育課程を編成する。 ②「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、更なる授業改善に取り組み、評価方法を研究する。	①新学習指導要領への移行を契機とする授業形態の転換を活かし、教科学習および探究活動への生徒の主体的な取組を促進することにより、科学的思考力と創造性、国際性を伸長する。 ②学力伸長および「深い学び」の実現を目標に、新学習指導要領に基づく指導に活かす評価を追究する。また、主体的な学習の促進をテーマとする授業改善を引き続き進める。	①SSH 事業に加え、STEAM 教育推進指定校としての実施計画を適切に作成し、実践する。 ①学力向上ＷＧと協働し、公開研究授業等を通じ組織的に授業改善に取り組むことで、新しい授業形態への転換を促進する。 ②授業見学や研究授業等、教員相互の授業研究の機会を増やす。生徒の振り返りを基に、教科として授業改善を図るカリキュラムマネジメントを進める。	①SSH 事業・STEAM 教育に係る校内体制、実施計画を適切に作成し、実践できたか。 ①授業評価等を用いて生徒の変容をはかる。 ①課題研究や探究的な学習活動と各教科学習を往還させた授業改善を図っているか。 ②「生徒による授業評価」および「学力調査」等の結果。	①SSH 事業全般において円滑に実践できた。STEAM 教育推進は、SSH に包含されているものの実践面で問題はなかった。 ①年２回の授業評価とそのフィードバックは適切に行われた。 ②公開研究授業の実施に当たり、「深い学び」の獲得に向けた授業実践について職員全員を対象とする討議の場を設けたことで、研究協議の意義を高めることができた。 ②公開研究授業及び横高スペシャル講座で知の活性化が図ることができた。	①実施計画を作成する段階で２つの事業の棲み分けが必要である。 ①新しい評価の観点についての共通理解が必要である。 ①教科横断型の授業スタイルへ挑戦しやすい環境を整える。 ②校内での研究授業の機会を増やし、恒常的に授業見学を行い、教員相互の理解やスキルを高める。	新学習指導要領への移行、70 分授業・2 学期制等これまでを総括したより充実した教育活動を望む。 PC の活用やグループワークなど、生徒が楽しそうに学んでいる。少人数のグループワークで学びを深めているのも良い。 SSH の取組が生徒の負担にならず、楽しく取り組めることを望む。 「一人一台端末」については電源の問題を解消するよう検討してほしい。	①STEAM 教育・SSH 事業、ICT 環境のさらなる整備、70 分授業、２学期制について校内で具体的な検討を進めた。 ①海外の学校との交流や留学生による校内プログラムを実施した。 ①SSH のポスター発表を１、２学年同時に対面で実施し、多くの外部機関の講師の方々に参観いただいた。 ②公開研究授業の後に全職員対象の研究協議を実施できた。今後の形態についてさらに検討改善が必要である。	①STEAM 教育の理念と実践方法を職員間で共有し、組織的に取り組む。教科横断型の授業実践に取り組む。 ①SSH NEWS を活用し、SSH、STEAM 教育の活動を発信する。 ②生徒の第一希望に応じた進路実績に達するよう、授業の質（バランス）と量の改善に取り組む。 ②公開研究授業の充実とともに、日常的な相互見学を進める。
2	生徒指導・ 支援	①特別活動や部活動を通じてトータルな人間教育を行い、将来リーダーシップを発揮できるようなバランスの取れた人材を育成する。 ②ＳＣ、ＳＳＷや外部機関と連携した支援体制を構築し、個々に応じた支援を行う。	①令和２年度からのコロナ禍により、変容が迫られる特別活動や部活動に生徒が積極的に取り組むよう支援し、校訓「自主自律」の精神を育む契機とする。 ②ＳＣとの連携体制やＳＳＷ等外部機関との連携による生徒情報及び生徒支援の手立てを、校内で迅速に共有し、生徒個々への支援に活かす。	①特別活動や部活動への積極的な参加を促す。 ①「自主自律」について生徒自身が考える機会を作り、生徒によるルールメイキングを進める。 ②教育相談コーディネーターの役割を機能させ、個々のケースに組織的に対応する。 ②SC 来校時の関係職員との振り返りの時間を確保する。	①部活動加入率 ①アンケート結果等から、生徒の変容をはかる。生徒による新たな企画・取組は見られたか。 ②個々のケースにおいて、時期を逃さず解決策を検討し、適切な支援を行えたか。 ②情報共有を十分に行い支援につなげることができたか。	①新入生に向けて部活動紹介及び勧誘を実施した。加入率は 92%を超えた。 ①生徒によるルールメイキングについては、「生徒申し合せ」の改定に生徒会役員会で取り組んでいる。 ②SC 来校時に、教育相談コーディネーター及び関係職員による振り返りを確実に行うことで、後の支援に向けた組織的対応に繋げた。 ②SSW、SC による職員対象研修会により、SSW、SC 制度活用についての職員の認識が深まった。	①部活動に多くの生徒が参加しやすいよう環境を整える。 ①生徒によるルールメイキングについて、次年度6月の生徒会長改選までに目途を立てる。 ②教育相談コーディネーターが本来の役割を果たせるよう教育相談体制の充実に努める。 ②SCに加え、SSW制度を活用することで、個々の生徒の多様な問題解決に繋げる。	朋友会 HP に学校の様子の情報提供として会報「母校編」をアップした。生徒会の生徒の生の声を載せることができたことは大きな収穫である。 学校広報について生徒有志が活躍、学校説明会でも好評を得た。	①部活動の加入率は 92%を超えており、上位の大会、コンクールなど評価できる実績は多いが、時間的にも、指導内容においても生徒がより満足できる活動環境を保障したい。 ②SSW の制度について職員研修を行い、職員の理解を深めることができた。 ②SC との連携に加え、SSW とも連携することで生徒の抱える多様な状況に対応することができた。 ②教育相談コーディネーターの制度が十分に生かされていない。	①４月の部活動紹介や新入生勧誘に２、３年生が十分に取り組めるようコロナの状況に合わせて検討し、実施する。 ②SC・SSW との面談後の振り返りを充実させる。 ②日常的な生徒情報の共有の仕組みに加え、SC,SSW を含めた組織的な教育相談体制を構築する。 ②教育相談体制について職員の理解を深め、適切な運用に繋げる。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 11 日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが高い志望を実現するためのキャリア教育プログラムを構築し、３年間を通じて一貫した進路指導を行うことで希望進路の実現に繋げる。	①生徒や保護者へキャリア形成について考える機会を効果的に提供し、生徒が強い意志を持って第一志望進路を選択できるよう、３年間を見通した進路指導を行い、その実現につなげる。	①未来ナビ、医療系ゼミを社会状況にあった形で運営する。 ①ICT を用いた模試の分析等を含め、進路指導に係る各種指導内容（模試・講習の実施・情報提供・進路相談）を連携させる。併せてキャリアパスポートの活用に取り組み、第１志望進路の実現を図る。 ①保護者への情報提供の回数と内容の充実を図る。	①未来ナビの満足度調査。医療系ゼミを年５回以上開催できたか。 ①各講習を有効に活用できたか。（参加人数。講座受講後等のアンケート結果） ①模試の有効活用により、進路指導計画の効果的な実践ができたか、また、職員の進路業務に係るスキルアップは図れたか。 ①ICT を活用した進路情報を保護者と共有できたか。	① 未来ナビの生徒満足度 99%。医療系ゼミ８回開催。 ① ６月実施土曜講座は 27 講座・延べ 426 人受講。夏期講習は 40 講座・延べ 546 名受講。 ①年間 10 回職員対象の進路支援研修会を実施し、模擬試験の結果分析や出願指導等に関する職員のスキルアップを図った。 ① 保護者進路説明会を前期・後期に実施。教員に加え、外部業者による各学年に応じた講話も実施した。	①未来ナビは1年生で実施(移行措置により今年度のみ2年生も実施)としたが、生徒の満足度は、昨年度以上の好結果となった。 ①講座毎の参加人数は、昨年比で6月土曜講座で約 4%減少し、夏期講習では約 13%増加した。講習の在り方について今後検討が必要と考える。 ①保護者説明会の形態、内容についてより効果的なものとなるよう改善を図る。	総合型選抜受験に向けての面接や小論文指導に力を入れてはどうか。 進路指導については塾や予備校に任せず学校が責任を持って行ってほしい。	①コロナ禍は完全に収束はしていないが、前年度よりも対面の行事を増やし、未来ナビや各講習・セミナーを実施した。 ①ＯＢによる講話、留学生との交流等の様々な機会を設けたことが、生徒が自身の未来と向き合う貴重な機会となった。 ①外部機関の紹介を受け、国際性涵養の講演を実施した。	①進路実績の向上を目指し、実効性のある取組を実施する。特別クラスの在り方も検討が必要。 ①生徒にとって適切な進路希望の設定とその実現を支援するために有効な進路支援体制を構築する。 ①1 年時からの３年間を見通した進路プログラムを実施する。
4	地域等との協働	①探究活動を中心に近隣の小中学校等との交流を行い、地域貢献に繋げる。 ②コミュニティスクールを活用し、保護者・地域との連携をより一層深め、開かれた学校づくりを推進する。	①探究活動や課題研究を通して得た知見を地域へ積極的に発信し、地域社会における科学の普及や地域の活性化につながるネットワークの構築を図る。 ②コロナ禍で停滞していた地域の教育力の活用を具体化し、地域への貢献とともに、家庭・地域による生徒の人間性・社会性の育成にもつなげる。	①各種コンテストや学会に積極的に挑戦して得た知見を基に、生徒による地域の児童・生徒に向けた「科学（実験）教室」の主体的な企画・運営を行う。 ②地域の防災訓練等の活動に参加し、地域の課題解決への参画を図る。生徒と地域住民が相互にボランティア活動に参加できるような環境整備に努める。	①各種コンテストへの参加状況のほか、リフレクションシートを用いて生徒の変容をはかる。 ①生徒による地域への科学教室が主体的に企画・運営できたか。 ②地域の防災訓練等に関わることができたか。生徒が地域の活動に参加できたか。地域住民が学校支援ボランティアに参加できたか。	①コロナ禍での制約が減り、校外のコンテスト等へ多くの生徒が挑戦した。 ①地域に貢献する科学的活動も例年並みに行えた。 ②地域の防災訓練についての実施状況等情報を得ることはできたが、生徒の参加には至らなかった。	①広く科学の普及につながるネットワークの構築が未達成だった。 ②コロナ禍の影響は残るものの、感染防止に努めながら生徒が防災訓練に関われるようまず第一歩を進める。	PTA として学校防災活動への参画を考えたい。 コロナの影響が落ち着いてきているので、地域との連携や PTA 活動に学校施設の開放を望む。	①地域の小中学校、高校とトウキョウサンショウウオに係る地域連携を継続・発展させることができた。 ②PTA 及び地域の方によるボランティア活動については令和４年度は取り組めなかった。 ②地域の防災訓練への参加、町内会館・学校の施設の相互利用など提案をいただいた。	①学校内外の環境美化に取り組む。校内の花壇等の維持管理をコロナ禍前のような PTA のボランティアバンクメンバーと取り組む。 ②地域連携は十分にできなかったが、生徒が参加できる活動も増えており、改めて連携体制を整える。 ②地域の防災訓練への参加を検討する。
5	学校管理 学校運営	①令和２年度末からの耐震工事に備えて環境整備を進め、教育環境への影響を最小限にとどめる。 ②ＨＰをはじめとしたツールを活用し、学校からの積極的な情報発信を行う。 ③教職員の仕事を精査し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①仮設校舎からC棟への移転及びA棟から仮設校舎への移転について安全に万全を期すとともに生徒の学習環境への影響を最小限に抑える。 ②Google Classroom ロイロノート、スタディサプリ等のツールを活用した学習環境の円滑な運営を行う。生徒目線による広報コンテンツを用意しHPをより充実させ本校の魅力を発信する。 ③Teams 活用の推進、特に掲示板と Chat 機能を活かして情報の周知や共有の効率化を図る。	①工事の工程・状況について情報共有、業者も含めた連携を確実に行い、安全な学習環境を確保する。 ②一人一台端末の導入を踏まえ、特に新１年生が Google Classroom、ロイロノート、スタディサプリ等の学習アプリを円滑に活用できるよう支援する。生徒広報タスクフォースを立ち上げ、生徒とともに広報活動を行う。 ③各種の情報共有を非常勤講師・事務職員も含め職員が Teams を使って行えるよう環境を整え、定着を図る。	①耐震工事に際して適切な環境整備を実施できたか。 ①耐震工事に関する情報共有、連携が必要な時期に適切に行われたか。 ②日々の教育活動においてインターネットへの接続やアプリケーションの起動が円滑に行われたか。生徒目線の魅力的なコンテンツが HP にアップロードされたか。 ③日々の業務において、情報の周知・共有が適切に行われたか。	①耐震工事に係る移転に伴い、情報共有を図り、情報機器、配線等の切り替えも含め円滑に移転を完了した。 ②各種ソフトウェアのアカウント作成により、ソフトウェアを活用した学習活動を進めることができた。生徒広報タスクフォース立ち上げによって生徒目線での広報活動が展開され、SNS(Twitter)や学校 HP 等での情報発信力が向上した。 ③Teams による資料共有や Chat 機能によるコミュニケーションの円滑化によって効率良く業務が進められるようになった。	①今後も空調その他の工事との調整など情報共有に努め、学習環境を確保する。 ②生徒目線での広報活動の持続可能性が課題である。今後も継続的に広報活動に生徒たちの参加を促す必要あり。 ③校務ネットワークの状況から職員室でしか資料を閲覧できないため、会議のペーパーレス化が引き続き課題である。	学校の施設（トイレ等）について性的マイノリティへの配慮が必要。 ICT の活用を一層進めて教育活動の充実につなげてほしい。同窓会で寄付したスクリーンもよく活用されている。緒方モニターの導入も検討するとよい。 生徒に余裕を持って接することができるよう働き方改革を進めてほしい。	①A 棟の仮設校舎への移転を滞りなく完了した。教室へのスクリーンや、デジタル時計の設置、また、空調設備、BYOD の環境の充実等施設面での整備が進んだ。 ②公式ツイッター、学校説明会など生徒による積極的な情報発信が学校の魅力を生徒目線で伝えると同時に、生徒の新たな活躍の場となった。 ②職員会議資料や生徒・保護者あて文書のペーパーレス化に取り組んだ。さらに工夫する必要がある。	①今年度の校舎間の移転のノウハウを次年度の工事完了後の移転に活かす。 ②一人一台端末の活用により、令和４年度よりもさらに進んだ授業作りやキャリア教育等、先進的な取組を進める。大型モニターの導入など、さらなる教育環境の整備を図る。 ③業務アシスタント制度の活用により、職員の負担軽減を図る。